

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 講師

氏名 根尾 櫻子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学生さんが、各学年で習得すべき必要な基本的な知識（国家試験レベル）に加えて、卒業後に活用・応用できる知識を身につけることに責任を持って授業を行なっている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
卒業論文	獣医学科	必修	6	1
獣医学特論 1	獣医学科	必修	6	1
獣医総合臨床実習（内科）	獣医学科	必修	5	170
小動物獣医総合臨床 2	獣医学科	必修	5	161
小動物病院実習	獣医学科	自由	6	5
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	154
総合獣医学	獣医学科	必修	6	163
臨床病理	獣医学科	必修	4	134
卒業論文	獣医学科	必修	5	5
獣医学特論 1	獣医学科	必修	5	5
卒業論文	獣医学科	必修	4	3
獣医学特論 1	獣医学科	必修	4	3

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

【教育理念】

- ①学生が主体的に問題を解決し、また、疑問を同級生や教員と協力して最適な方法を自らみつけて解決する方法を学べる教育。
- ②将来、限られた情報や時間で疑問解決を導くことを指導する効率的な授業。
- ③学習を定着させ、将来に向けての学修を実施することで、卒業後の社会でも不安なく問題を解決する方法を身につける授業。

【教育理念を遂行するための自分の教育アプローチ】

獣医学部での教育を受けた後、学生は、小動物や産業動物臨床、公務員、製薬企業、研究職など様々な分野に進んでいく。どの分野においても常に解決をしなければならない問題や疑問は発生する。その際には学生時代に培った問題解決能力が重要である。将来的に問題可決ができる能力をつけるために、学生時代にまず、個々で問題を解決する解決法を、筋道を立てて考え、周囲の同級生や教員とアイディアを出し合いながら最適な方法を見つけることを達成できるように教育する。また、限られた情報や時間を効率的に活用して問題の解決ができるような方法も指導する。さらに、卒業後、新しい社会で困難を感じた時にも不安を和らげられるように、学習を定着させること、また、困った時には仲間や大学の教員に相談することも解決策であることを教える授業を遂行する。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

【教育の目的】

将来獣医師免許を持った際に、不安なく活動できるように必要な知識と問題解決能力を持てるようにする。

【教育目標】

学生が卒業後に獣医師として社会で通用する能力を身につけること。国際的に通用するレベルの教育を行うこと。

【教育内容】

基本的な知識を身につけさせることとその応用力が持てるような協力を志している。また、アドバンス教育では、アメリカの獣医学教育の中で、3年間の専門医教育トレーニングを受けた自身の経験をもとに、国内においても、10年進んでいると言われている欧米の獣医学教育と同等の教育を行うことを目標として常に教育を行なっている。獣医師にも専門があるように、学生にも得意な科目、不得意な科目がある。不得意な科目である場合にはそれを仲間と協力することで克服していくことを教えている。また、将来仕事をする上で大切なことは、もちろん自分自身の能力を高めることもあるが、それ以上に、その時々の問題点（例：重症例の診察、治療など）が解決できることであり、それを行うためには、学生が、自分の力だけでなく、相手の意見を受け入れ、協力して問題解決に取り組めるように気にかけている。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

特に、5年生の小動物臨床実習（参加型臨床実習）、また、6年生の小動物病院実習（臨床病理）では、血液、骨髄、細胞診のスライドを学生さんに通常は顕微鏡で、今年度はwebで配信した標本の写真を用いてまず診断をしてもらう。診断を進める上では、学生同士で積極的に意見交換をすること、また資料を活用することを推奨している。自分たちの力で解決ができるところまで解決し、またその解決に至るまでに協力することを学んでもらう。そうすることで、将来的に動物の診療のみならず、何らかの問題を解決しなければならない際の問題解決能力を育成できると考えている。学生間で診断（問題解決）を行ったのち、参加型臨床実習では、教員1：学生6人、また小動物病院実習では教員1：学生2-3人でディスカッションを行い、どの様にしてその診断に至ったか、説明してもらい、教員側としては解説を交えながら、また学生には積極的に質問をしてもらい、彼らの疑問を解決しながら最終診断に至るまで、段階的に教えることを心がけている。

(2) ICTの教育活用

有

対面形式の授業は録画し、それを公開することで復習に用いることができるようにした。対面でできなかった授業に関しては、オンデマンド資料を作製し、提供した。質問があった場合は、Eメールにて対応した。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

臨床病理や小動物総合獣医学などの授業では、授業中に国家試験で出題されていたところは、国試に出題されたところだから特に重要です、と授業の中で伝えた。5年生の参加型臨床実習では、顕微鏡を使った細胞診の実習で、実際に学生が診断をするという実習を行うが、それを解説する中で、国家試験に出題された問題を提示しながら、国家試験を受けるにあたり、知っておくべき細胞の見方を教えた。

大人数での実習においては、学生主体の取り組みを行えるように班分けをした後、各班に異なる課題を与え、ディスカッションの時間を設け、最後にその結果を全体に発表する、という形式をとった。発表に対してはその場で要点を解説して双方向授業に取り組んだ。

(2) 学生の理解度の把握

B

授業では小テストを用いることで学生の理解度の把握を行った。質問に対しては授業の合間に、またはEメールで解答することで理解度の把握を行った。実習では積極的に各班を回り、理解ができているか、確認を行った。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

課題を提示し、それを解決するために、各自およびグループで調べてディスカッションをするように取り組んでいる。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

学生さんに対しては、授業でわからない所があれば質問をしてください、と毎回伝える。質問への対応は授業内およびEメールで行っている。なるべく質問とそれに対する回答を全体に共有するように心がけている。

(5) 双方向授業への工夫

A

特に実習では課題に対して学生間および教員学生間でディスカッションを積極的に行うように心がけている。また、その質問と要点、回答は、全員に共有することを心がけている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

現在コーディネーターを務める臨床病理では、毎年、第1回目の授業で学生さんに授業評価を公表し、対策を示す。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

授業およびeメールでの質問を多く受けた。しかし、日本語での臨床病理の教科書がないことは、理解度が深まらない原因だと感じている。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

担当教員には積極的に質問に回答することをお願いする予定である。また、その質問とその質問への回答を全員に共有することをお願いする計画である。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

各ポイントをある程度把握することが重要であると思われるため、教員には、各授業のポイントをまとめたスライドを入れるようお願いしたことで理解するポイントが見えてきたようである。今後は授業の中で小問題の提示および解説を行い、学生の理解度を測るという取り組みをする予定である。また実習では課題に対して学生間および教員学生間でディスカッションを積極的に行うように心がける。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

特に6年次の小動物病院実習では、一つ一つの症例に関して教員、学生、交えてディスカッションをすることで深く考えることができて良かったという感想をもらった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

FD研究会には、外部との外せない会議と重ならない場合は出席し、出席できない場合は、録音されたものを聞かせていただいた。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

短期目標

授業評価で、学生さんが授業を楽しめた！理解できた！との反応を得ることを目標とした。

長期目標

卒業後に麻布大学で学んで良かった！と思ってもらう。さらに我々の行なっている臨床教育を受けた学生が獣医師として麻布大学動物病院に戻り、麻布大学動物病院がより発展すること、さらに麻布大学で学べば国際レベルの獣医師となれるようにすること。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（FDプログラム参加，複数年のシラバス）

3. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント

4. 指導学生の学会発表，学生の進路選択への影響